

「令和6年度北筑後地区子どもの読書活動推進研修会」

【講話・実践発表】にお寄せいただいた質問に対する回答

質問1： 自分がフルートと読み聞かせを組み合わせた「音楽読み聞かせ」をやっています。SORAさんに、プログラムの例やプログラムを組むときに気を付けていることなどを伺いたいです。（読書ボランティア）

回答⇒ 「読み聞かせ」という点から言うと、まず、音楽がメインではなく、あくまでも絵本に添えるものだということ。

プログラムは聞き手の年齢層や会の趣旨などを考慮して、軸になるテーマを決められると選書がしやすくなると思います。導入、参加型、じっくり聞いてもらう絵本などプログラムに流れをつくり、幅広く選書することも大事だと思います。

質問2： 幼児期に YouTube ではなく絵本に触れる時間をつくるにはどうしたらいいですか。家庭で、保護者の方にしていきたいのですが…。(幼稚園教諭、保育士)

回答⇒ まずは、先生方が子どもたちに絵本の楽しさを伝え続けることだと思います。そして、保育参観日などを利用して、子どもたちが絵本を楽しんでいる姿を実際に見てもらうこと。また、親子で体感してもらうことが大切ではないでしょうか。

実際、どのご家庭も仕事や家事に追われ、親子のコミュニケーションが十分とれていないのではないのでしょうか。絵本の読み聞かせにはスキンシップがあり、生身の声があり、子どもにとって親御さんの愛情が自分のために向けられていると感じるととても幸せな時間だと思います。「絵本の読み聞かせは最高の愛情表現」です。なぜ読み聞かせが大事なのか・・・そこには教育的な事だけではなく、大切な意味があることを親御さんたちに知ってほしいです。

また、家庭で足りない部分を補う保育士さんの果たす役割も大きいと思います。

質問3：講話では、まちどくの取組について成り立ちをもっと知りたいと思いました。家読の推進を進めているところですので、今後、黒川町へ実際に行ってみたいと思います。(行政関係者)

回答⇒ ぜひ一度、黒川町へお越し下さい！

「家読(家庭読書)」の取組みが出発点ではありますが、やはり、地域で取り組む効果は大きいです。

子どもたちの心を育てるだけでなく、“親育て”としての役割もあり、子どもから大人まで「絵本」に触れる環境、“まちどく”を目指しています。

私たちSORAの活動としましても、去年は高齢者の方から要請(要望?)があり、健康体操と絵本を組み合わせた会をたくさん開くことができました。これまで少しずつ地道な活動を続けてきましたが、子どもたちへの読み聞かせだけでなく、絵本の輪が広がっていることを実感しています。まずは町のみなさんが、実際の絵本に触れる機会をたくさん作ってみられてはどうでしょうか。